

<東北税理士会会長賞>

当たり前のサービス

北塩原村立裏磐梯中学校

3年 物江 ころろ

「税金を払わない人の火事は消しません。」「税金を払わない人は救急搬送しません。」

私たちの住んでいる日本で、このような話を聞いたら驚くだろう。しかし、当たり前と思っているサービスは税で賄われている。

アメリカテネシー州では、税金を納めていなかったため、家が全焼した。私はこの事を知り、驚くと同時に日本の暮らしに感謝した。

更に調べてみると、アメリカ・カナダ・ドイツ等諸外国では、救急搬送は有料サービスだと分かった。耐えられない激痛で、救急車を要請すると仮定する。ところが、救急搬送代金が高額なのでためらわなくてはならない。このような事態が起こり得るのだ。

日本は無料で良かった。と感じる人も少なくない。だが、本当に0円だろうか。消防車や救急車が駆けつけるのは、多くの人の税金によって成り立っている。だから、タクシー代わりに救急車を呼ぶ行為はするべきではない。

タイの救急救命活動は大部分をボランティアの隊員に支えられているという。民間人が救命活動をするだけでなく、遺体の回収や埋葬まで行う。

大変素晴らしい活動であり、見習わなくてはならない。その反面、サービスの質に差が出てしまうのではないかと考える。

小学6年生の時、税に関する書道展の会場で、世界の消費税を地図で色分けしたクリアファイルを買った。

日本は8パーセント、タイは7パーセントだった。多くの国は10パーセント以上で、

ヨーロッパ各国は20パーセントだ。

日本の中で生活していると、諸外国との税制度の違いについて考える機会は少ない。利用しているサービスも当たり前だと思ってしまう。しかし、教育や医療、道路など暮らしていく上でなくてはならないものばかりだ。日本に生まれて良かった。その反面、税金が公平に正しく使われているか疑問に思う事もある。

私の住む福島県では、冬になると毎年のように遭難事故が発生する。遭難者の中には、スキー場のコース外滑走や悪天候の冬山登山も含まれる。

2年前の1月、登校中のバスの中からある光景をみた。外国人グループの遭難者が雪山から救助され、下山して来たのだ。いつも静かな早朝の登山口に警察や消防の車が、騒然と集まっていた。ニュースで、遭難者は大きな怪我もなく救助されたと分かった。

ほっとしたのと同時に、救助にかかった費用は税金で賄われると知った。

私たちの安全で安心した暮らしは、日本の税制度によって賄われている。よって、暮らしを守るために、当たり前のサービスは税制度の上に成り立っている事を忘れてはならない。一人ひとりが、無駄遣いがないようにするべきだ。